



七夕の願いごと

7月の教室には、七夕の笹飾りがやさしく揺れています。願い事を書いた短冊には、
「みんな なかよしでいたい」
「みんなにやさしくしたい」
「やさしいおねえさんになりますように」
「みんないっしょで」
というような、やさしい言葉がめだちました。



「みんな」

短冊に最も多く使われていた言葉が「みんな」でした。自分だけのための願い事ではなく、「みんな」のことを願う短冊がたくさんあったことに驚きました。同時にそれは予想外のことで、たいへん嬉しいことでした。

真名子小では、「思いやりのある子」という教育目標を掲げ、「日本一の仲良し学校」を目指して取り組んでいます。「みんな」という意識は、「自分のことだけを考えない」ということで、「仲良し」をつくる上で最も大切なものです。「みんな…」という願い事を書いた短冊がたくさんあったことで、「思いやりのある子」に向かう着実な歩みを感じとることができました。

やさしさがあふれる学校づくりをめざして



パソコン、携帯、ゲーム機など「機械」を相手に遊ぶことは得意でも、「人間」と遊ぶことが不得手だという子が多くなっている現代。人との関わりを楽しみ、大切にできる子を育てていかなければ、「思いやりのある子」という教育目標を具現化することができません。

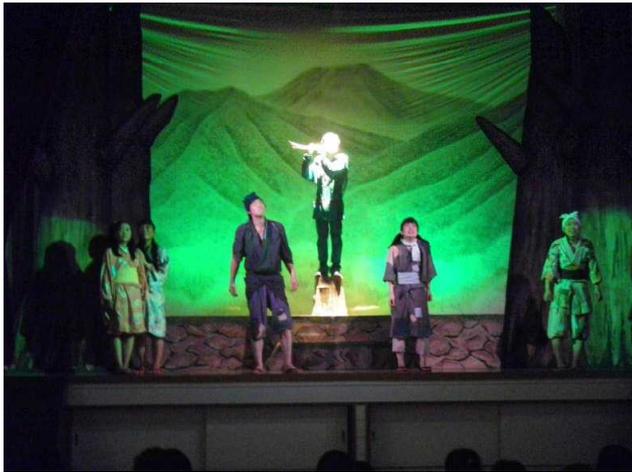
思いやりの心を育てる取り組みとして、真名子小で実践しているのは、「親切のクローバー」です。

友達から親切を受けた子が、ハート型の色紙にそのことを書きます。その色紙が4枚集まるとクローバーの形になります。そうしてできあがったのが、写真の「親切のクローバー」です。

「クローバーが増えると教室が明るくなるだけではありません。みんなの心も明るくなります。うれしい気持ちになるとクローバーもどんどん増えていくのです。」これは、1年生の中村華純さんが、「親切なみんな」という題名で書いた作文の一節です。クローバーをはるコーナーがいっぱいになって、となりのスペースにまで広がっていく喜びについて書いた作文で、心が温まってきます。

各教室では、このクローバーがどんどん広がってきています。クローバーの広がりに伴って思いやりの心がいっぱい学校ができあがってくることを目指しています。

真名子小の6月 よりかしこく より心豊かに よりたくましく 行事の一部を紹介します
 ～みんなで見た劇「河童の笛」～ ー6月12日ー



【日照りに苦しむ村人たちのために、宇宙のかなたからやってきた河童が笛を吹き、雨乞いをする場面】

本当のやさしさを持つ者にしか聞こえない不思議な笛の音に心打たれました。やさしさとは何か、劇をとおしてみんなで考えました。



←西方小6年1組の教室で算数の授業

西方小との交流（合同授業）

ー6月15日ー

「コミュニケーション」と「仲間づくり」

西方地域の2つの小学校同士の連携を図ることと、子どもたち相互の交流を図ることを目的に、真名子小6年生10人が西方小へ行きました。

算数、学級活動、体育の授業を合同で受け、給食を一緒に食べて親睦を深めました。

西方小体育館で→
6年1組・2組の子どもたちと合同で体育の授業



避難訓練 ～竜巻への対応～

「竜巻が起きたとき、どうすればよいのか！」

ー6月17日ー



学級ごとに素早く教室を出る子どもたち



指定されているトイレに避難する子どもたち

竜巻注意報が出たのち、学校から見えるところに竜巻が発生したという想定で避難訓練を行いました。竜巻のときには10秒以内に教室を出て、安全な所へ避難しなければなりません。児童全員が真剣な表情で、時間以内に近くのトイレに避難することができました。

「真名子の良いところ探検隊」

～3年生 ふるさと学習～

ー6月18日ー

3年生児童10名が、「総合的な学習」として、真名子の名所旧跡である八百比丘尼神社や「真名子八水」といわれる8つの名水の場所を訪れ、学校支援ボランティアである中村良一様の案内で、ふるさと真名子のよいところについて学習しました。

伝説に伝えられる→
八百比丘尼神社

真名子八水の一つ「鏡水」
(姿見の池)を見学 ↓

